

○ 地域活動支援センター『UNEHAUS うねハウス』を拠点に米や野菜の栽培のほか山野に自生する植栽を採取し、障害者と生活困窮者等が地域の高齢者と協働で農産物等の加工・販売を行い地域に貢献。

基本情報

- 所在地：新潟県長岡市
- 活動地域：中間農業地域
- 団体名：認定特定非営利活動法人 U N E
- 選定表彰：
 - ・ H31 全国どぶろく研究大会in遠野 優秀賞 (主催：第13回全国どぶろく研究大会実行委員会)
 - ・ R2 新潟県優良経営体等表彰 (農福連携の部) 農業会議会長賞 (主催：新潟県)
 - ・ R2 ノウフクアワード2020 優秀賞
- 主力商品：どぶろく、農家レストラン、農家民宿、クロモジ茶、よもぎ
- 取得認証等：認定農業者

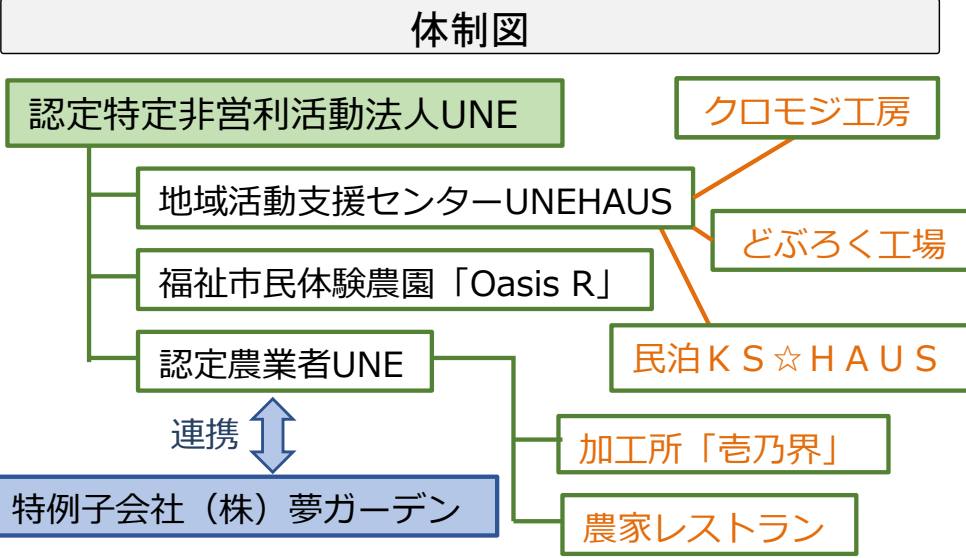
取組の概要

- 障害者、高齢者、生活困窮者など多様な人材が米や野菜の栽培のほか「福祉市民体験農園OasisR」や「農家レストラン」「農家民宿」「キッチンカー」等の運営や「どぶろく雪中壺乃界」の製造に携わっている。
- 薬用商品の原料供給を目的に山野に自生するヨモギ、笹、クロモジなどを採取し調整、加工、出荷を行い障害者等の多様な人々の就労につながる取組を行っている。

福祉体験農園OasisR

農家レストラン

薬用商品の原材料の加工



取組の成果

- NPO法人として県内で初めて農業に参入、翌年には認定農業者となり、中山間地域の担い手となる。
- クロモジの栽培と併せ、山林のクロモジを採取し医薬品会社に出荷、また、クロモジ加工品を製品化し需要を喚起することで、山林の整備にも貢献。
- 地域の特産物として、付加価値の高い商品作りに取り組んだことで年々売上が上昇し、工賃も向上 (売上1,061万円 (H27) → 1,900万円 (R5))

所在地 ▶新潟県長岡市一之貝869
 連絡先 ▶TEL : 0258-86-8121 FAX : 0258-86-8131 E-mail : une_aze@yahoo.co.jp
 ウェブサイト ▶https://www.une-aze.com

【取組のプロセス】

社会的弱者が地域で安心して暮らせる環境作りに取り組む。

平成16年

きっかけ

新潟県中越地震をきっかけに、障害者や高齢者にはいっそうの支援が必要と感じる。

平成24年、特例子会社「(株)夢ガーデン」が設立され、連携する。

平成23年

NPO法人として県内で初めて農業に参入

- 平成23年4月、障害者地域活動支援センターUNEHAUS（ウネハウス）と特定非営利活動法人UNEを設立。
- 平成24年、障害者と家族による野菜づくり活動などを経て、NPO法人として県内で初めて本格的に農業に参入。
- 平成25年、認定農業者となり、農業だけではなく地域の活動に積極的に参加。



UNEHAUS (ウネハウス)

福祉農園等整備事業（H29）、農福連携サポーター育成・派遣支援事業（R2）を活用

平成25年

農家レストラン、どぶろく製造、農家民宿、様々な仕事

- 平成25年、農家レストランの営業を開始。農業だけでなく農家レストランや加工、作業請負など、様々な事業を展開することで、障害者や高齢者等それぞれの適性に応じた仕事の場を創出。
- 平成27年、どぶろく製造を開始。翌年にはUNEHAUSで簡易宿泊営業許可を取得。



どぶろく「雪中吉乃界」

薬用飲料の原料となるヨモギ栽培に着手し、条件の悪いほ場も活用。

平成30年

福祉・市民体験農園、クロモジ工房をオープン

- 平成30年、長岡市街の河川敷に「福祉・市民体験農園Oasis R」を開園。同年、クロモジ工房をオープン。クロモジ茶、クロモジミストを生産。
- 平成31年3月、認定NPO法人となり、広く地域貢献事業「送迎や雪下ろし等」で活躍。



ヨモギの収穫

全国どぶろく研究大会濃芳醇の部優秀賞（H31）、新潟県優良経営体等表彰農福連携の部農業会議会長賞（R2）受賞

令和2年

ノウフク・アワード2020 優秀賞受賞

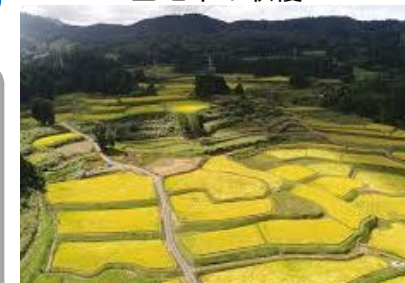
- 令和2年、ノウフク・アワード2020 優秀賞受賞
- 農福連携の普及啓発のため、農福連携サポーター養成講座を開講し人材育成に取り組む。
- 令和5年より農福連携を活用した、ひきこもり支援を開始。

（R4）農山漁村振興交付金（農福連携対策）簡易整備型でUNEHAUSに作業場を整備

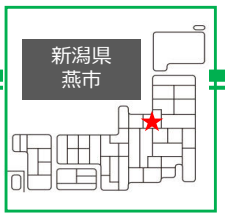
今後の展望

中山間地域で新たな里山集落コミュニティを構築

- 障害者、高齢者、生活困窮者、ひきこもり等の受け入れを行うとともに、生き生きと働き、社会参画を果たし、生活できる環境を作り「コミュニティ・ソーシャル・ファーム」の実現を目指す。
- 育成した農福連携サポーターを通じ、農家と障害者の間に立ち農福連携を推進するとともに、新潟県内に農福連携の運動を普及していきたい。



越後一之貝の棚田



水耕栽培を通じて、障害者一人一人のニーズや目標に応じた支援に取り組み、地域から求められる就労支援施設を目指す。

基本情報


- 所在地：新潟県燕市
- 団体名：株式会社なごみ
なごみの水耕（就労継続支援B型事業所）
- 選定表彰：－
- 主力商品・イベント：にんにくスプラウト、レタス、バジル、エディブルフラワー




取組の概要

- 現在22名/日が施設内で作業を実施。栽培品目は、にんにくスプラウトと葉物野菜（レタス、バジル、エディブルフラワーなど）。
- 作業内容は、にんにくスプラウトの場合、①皮むき、②専用容器への定植、③収穫の3つ。葉物野菜においては定植・収穫に加えて播種作業もある。その他肥培管理は機械が自動的に行うシステムとなっている。
- 障害の程度に応じてどのような作業ができるかを見極めながら役割分担を決めている。


項目	単位	取組当初	R4年
障害者数	人	21	36
農地面積	a	1	1
工賃総額	千円	1,118	3,233




にんにく皮むき作業



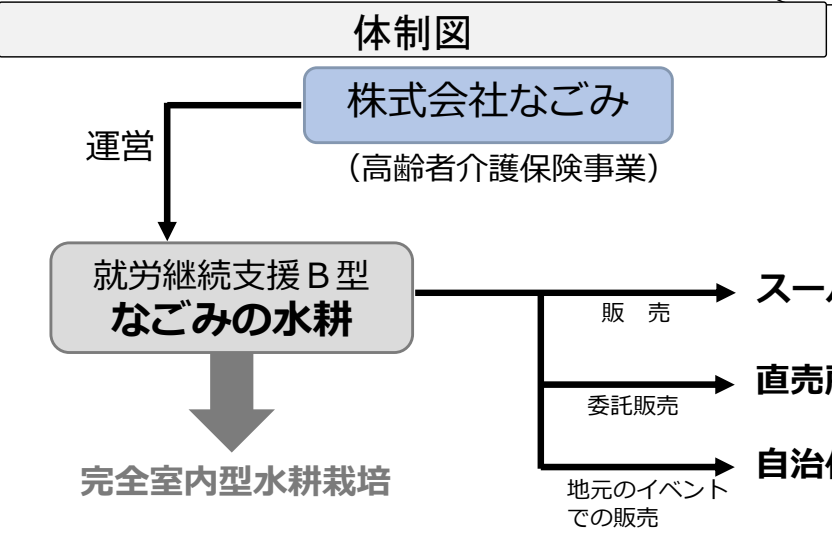
出荷・調製作業



レタス収穫作業



エディブルフラワー



取組の成果

- 播種～収穫～販売まで全ての仕事に携わることで、やりがいを感じてもらえている。
- 相談支援員からは、「入所前より表情が良くなった」、「症状が改善した」という声を聞いており、水耕栽培に取り組んだ成果が出ていることを実感している。

所在地 ▶ 新潟県燕市水道町4-8-28（なごみの水耕）
 連絡先 ▶ TEL: 0256-47-5005 E-mail: suikou@nagomi-care.jp
 ウェブサイト ▶ <https://suikou4.wixsite.com/my-site>

【取組のプロセス】

平成28
年

きっかけ

利用者一人一人が“やりがい”を持って作業にチャレンジできる！
そのような環境を整備したいと考え、完全室内型水耕栽培の導入に着手

令和3年5月開所

障害者就労継続支援B型事業所「なごみの水耕」を開設

- 天候に左右されず、通年で快適な環境の中作業ができる室内型の水耕栽培施設を開設。利用者自ら作物を育てることができる環境を整備。



なごみの水耕 外観

令和3年

水耕栽培の知識・技術の習得／栽培管理

- 当施設の職員が、同じように水耕栽培に取り組んでいる事業所の現地視察等を行うことで知識・技術を習得した。技術的に分からないことがあれば、指導していただいた方と連絡を取り、相談しながら対応している。



エディブルフラワー試験栽培

販売先のニーズに合わせて導入作物を選定。協力機関と連携しながら安定生産を目指す。

収穫物の販売

- 収穫物は当施設で販売するほか、スーパーや地元直売所での委託販売などを実施。季節ごとのイベントにも積極的に参加し、利用者自ら販売員として売り場に立っている。



販売イベント対応

販売・接客対応を通じて、「自分たちで作った野菜を食べてもらえる」といった喜びややりがいを感じることができる。

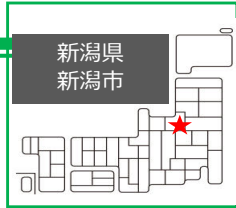
水耕栽培を通じて利用者とともに成長する

- 利用者と相談しながら商品企画やPR資材の制作を行い、少しずつ販売先を確保・拡大中。今後も新規販売先の獲得を目指し、より良い品質の野菜を多くの方の食卓に届ける。
- 利用者に対して、これからも一人ひとりのニーズや目標に応じた支援・環境を提供し続け、地域から求められる就労支援施設を目指す。



利用者・職員

今後の
展望



「一から全て」、「一流のものを一流のお店に使ってもらう」ことをコンセプトに、畑とハウス1棟で主にハーブ類、リーフレタス、新潟在来種の野菜を、農薬・肥料・除草剤を使わず栽培し、加工、包装、販売までのすべての作業工程を農福連携で行う。農産物を加工することで長期保存を可能とし、付加価値をつけ収入アップを図るとともに、障害者の活躍の場を増やし、'やり甲斐'を育てていく。

基本情報

- 所在地：新潟県新潟市
- 団体名：農園CuRA！（ちゅら）
- 選定表彰：令和3年ノウフクアワードフレッシュ賞受賞
- 取組パターン：連携型
- 主力商品・イベント：ハーブ、ハーブ加工品、レモン、ジャム、ドレッシング、在来種野菜、味噌加工品
- 取得認証等：-

取組の概要

- 農園CuRA!は、当園スタッフと健常者1名、パート雇用2名、施設外就労受入を2箇所の事業所から行い、育苗作業を1事業所に委託し、経営している。
- 除草や耕耘等のほ場整備から播種、間引き、剪定、収穫、出荷準備、検品、販売等のすべての作業工程に障害者が関わり、責任とやり甲斐を感じることで、生産量・品質向上に繋がっている。
- 新潟市内の特別支援学校の生徒の受入を2018年から毎年実施し、施設外就労の利用者とチームを組み、切磋琢磨しながら協働作業を行っている。
- 周辺農家が生産している果物や野菜と、ハーブを組み合わせ、ドレッシングやジャム等の加工品を製造し、県外でも販売している。
- 2019年には、輸出を視野に入れ、ロシア・フランス・シンガポールへサンプル輸出を実施。
- 2020年から複数の福祉事業所とともに、赤しその栽培から加工を施設の設備や技術に合わせた作業分担による商品製造、一般販売を行う。

項目	単位	取組当初	H30年	R元年	R2年	R3年	R4年
障害者数	人	3	6	10	17	7	18
農地面積	a	54	61	61	72	74	74
障害者月平均賃金	千円		24,000	139,440	338,640	211,200	366,000



取組の成果

- 障害者の得意を伸ばすことで新たにできる作業が増え、生産性が3倍以上アップし、販路拡大と売上向上に繋がった。
- 障害者就労者数も、取組当初より増加している。（2017年：3名→2022年：18名）
- OEM、PB商品の受託が可能となった。

所在地 ▶ 新潟県新潟市江南区嘉瀬3336-4
 連絡先 ▶ TEL:090-8724-6050 FAX：-
 E-mail:niigata_herb_cura@icloud.com
 ウェブサイト ▶ <https://www.facebook.com/niigata.herb.cura>

荒廃農地の増加と地域住民の高齢化という現状

幼少期

きっかけ

両親が経営する学習塾に通う生徒の7割～8割が障害児であったため、周囲に障害者がいることは当たり前であった。次第に、彼等の働く環境に疑問を抱き、「活躍の場をつくりたい!」という思いにつながった。

大量のハーブが欲しいという問い合わせが度々あった

2017年～

新規就農・農福連携スタート

- 販路が確立している作物中心の農業であれば工賃が払えると考え、就農当初から施設外就労を受け入れた。
- 精神疾患のある人が香りで癒やされながら‘やり甲斐’を感じられる機会を設けたいと考え、54aのハーブ園を開始した。(施設外就労受入と援農ボランティアの受入)



新潟市アグリサポートセンターと江南区役所のマッチングを利用。

2018年～

加工製造をスタート。ロシア、フランスなどへ輸出を開始

- 県外にもファンを増やしていくことを目標に、フレッシュな商品よりも高単価で日持ちする加工品を一次生産と並行して製造することにした。
- 新潟県内や日本国内だけでは販路が増えたとしても頭打ちになる。世界に出荷していくことができれば、今関わっている福祉事業所だけではなく、ほかの施設なども仕事が少ない時に製造して作りだめていくことで、常に仕事する環境が用意できると考えた。



稲作と果樹栽培は盛んだが、色味がある花などが地域にはない・・・

2020年～

エディブルフラワーの生産を開始

- 高齢であっても、言葉など表現が不自由でも、「きれい」「いい香り」など感動を共有できる景色を作り出し、それを地域の高齢者やUターン組とのコミュニケーションツールの一つとして利用していきながら共生を目指している。



新潟市12次産業化推進計画

2023年～

分散していたほ場を集約するとともに、県外の販売先を大幅増加

- 分散していたほ場を1カ所に集約することで、栽培管理をしやすくし作業効率を上げた。
- 商談会等に積極的に参加することで新潟県以外の販売先の開拓を進め、関西、東海地方に取引を拡大することができた。(2018年1件→2023年8件)



今後の展望

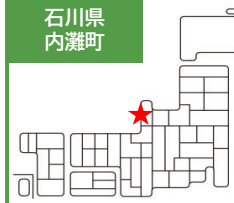
グローバル展開・香りと彩りで明るい世界をつくる

- ハーブや花を生産する面積を少しずつ拡大し、五感で感じながら働くことができ、近隣住民もコミュニケーションが図りやすく居心地のよい職場・居住環境を作っていく。
- 積雪地帯ではハーブ等の栽培が難しい面があり、温暖な地域での農福連携を模索中。

こまつな、ほうれんそうの収穫、袋詰めなどの作業を一年を通して福祉事務所に委託。また、地元小学校の農業体験や特別支援学校の農業実習を受け入れなど幅広い活動を実施。

農林水産業経営体

石川県内灘町



きっかけ

H29年

近隣の福祉事務所から「障害者に農作業をさせてほしい」と依頼され、受け入れを開始。

人を耕す

- 障害者等に向いている農作業を細分化することで年間6つの福祉事業所に25の作業を請負ってもらい、障害者等の工賃や賃金の向上に繋がっている。
- 誰もが見てわかるように治具等を工夫することで障害者等が「自立した仕事」をできるようになり達成感、やりがいを得ることに繋がっている。

地域を耕す

- 地域の小学校の農業体験、特別支援学校の農業実習や地域の保育園、福祉施設に訪問し、地元の野菜を身近に感じてもらう取組を行う。
- 石川県農福連携促進アドバイザーを務め農業と福祉のマッチング支援に携わり石川県の農福連携推進に貢献。

未来を耕す

- 出荷規格に合わない野菜を使用した商品を販売。製造を福祉事務所に依頼することで収穫から製造に障害者等が携わっている。
- 農福連携の実践、作業療法士として病院に勤めた経験を活かし農福連携の健康効果について学会などで発表。

取組

基本情報

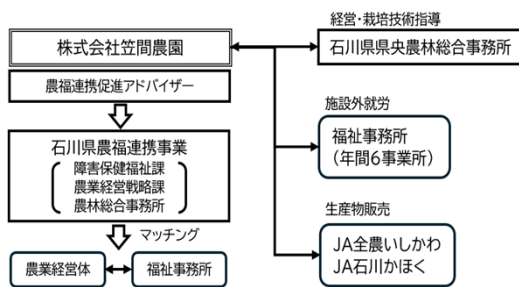
設立:S58年 / 農福連携取組開始:H29年
 取得認証等:認定農業者(R元年)
 農山漁村振興交付金(農福連携対策)(R3年度)
 主な選定表彰:ディスカバー農山漁村の宝2020(全国選定)等

概要

主力商品
 (農作物)こまつな、ほうれんそう、えだまめ、さといも、にんじん等

特徴的な取組
 石川県農福連携促進アドバイザー、日本農福連携学会 理事、6次産業化

体制図



住所:石川県河北郡内灘町湖西85
 Mail:komatsunanako@kasamanouen.jp
 URL:https://www.kasamanouen.jp/

受け入れている者

身体障害	
精神障害 ※発達障害含む	○
知的障害	○
その他障害	○
生活困窮	
ひきこもり	
高齢者	○
その他	

成果

施設外就労委託額

201万円(R2)
→495万円(R6)

施設外就労委託先

4事業所(R2)
→6事業所(R6)

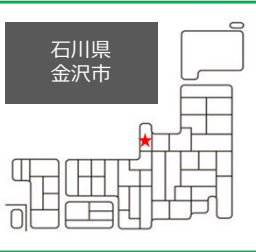
年間受入れ延べ人数

約1,500人(R2)
→約2,000人(R6)

栽培面積

2ha(R2)
→8.4ha(R6)

- 農作業を通じて得られる「達成感」、「やりがい」により、障害者等の安心して過ごせる居場所となっている。
- 農福連携を開始してから、農作業を委託することで栽培品目の増加、出荷量の増加し、委託する農作業の種類も増え障害者が活躍する場の創出や工賃向上に繋がっている。



農家・集出荷場と障害福祉サービス事業所との農福連携のマッチングを行い、双方のパイプ役として、作業内容や労働条件の確認、日程調整、作業指導などの支援を行う。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市
- 団体名：金沢市農業協同組合
- 選定表彰：ノウフク・アワード2022 フレッシュ賞
- 主力商品：-
- 取得認証等：-



JA担当者と農家の打合せ



野菜の荷受け作業

取組の概要

○JA金沢市管内の農家やJA野菜集出荷場と障害福祉サービス事業所に農福連携のメリットを説明し、マッチングを図る。

○マッチングにあたり、事前に農家や集出荷場での作業内容と、障害者が行うことができる作業内容、労働条件等を確認し、連携できる相手を選定する。

○障害者の主な作業としては、水稻の田植えの際の肥料・苗運搬、育苗箱洗浄、収穫された野菜の集荷の手伝い、洗浄・計量・選果・袋詰めなどを行っている。

○マッチング後は、双方の作業日程・人数の調整、障害者が作業を覚えるための作業マニュアル（写真入り）作成、現場での作業説明等を行い、継続的な連携に向け支援を行う。

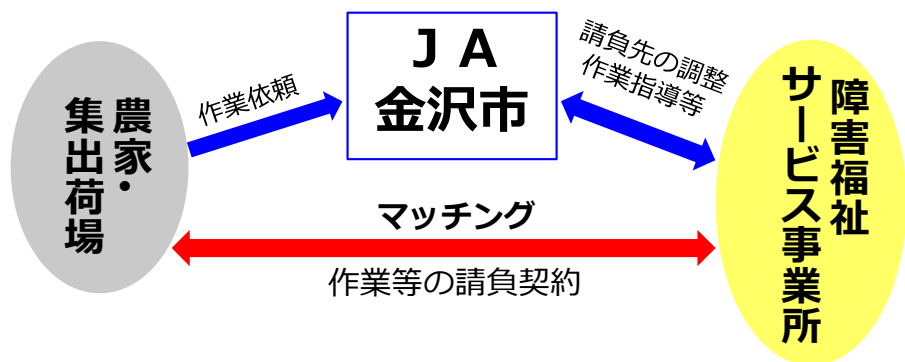


田植えでの苗箱渡し作業



野菜集出荷場での作業

体制図



取組の成果

- マッチング数の増加（平成30年度1件 → 令和5年度20件）。
- 農家や集出荷場の繁忙期に、まとまった労働力の確保が可能。
- 障害福祉サービス事業所の年間を通じた労働の確保及び工賃アップ。
- 障害者に多様な作業を紹介することで、労働意欲増進。
- 連携のメリットを双方が実感することによる、地域における農福連携の取組の定着。
- 訪問先農家やJA広報誌で取組を紹介することで、他の農家に波及。

所在地 ▶ 石川県金沢市松寺町末59番地1

連絡先 ▶ TEL:076-237-0250

ウェブサイト ▶ <https://www.ja-kanazawashi.or.jp/>

【取組のプロセス】

平成30年

農福連携の担当室を設置

きっかけ

- 農家や集出荷場の労働力不足を補うために、JAが障害福祉サービス事業所との連携を試みる。

JAに農福連携の担当室を設置

- 労働力不足の問題を抱える農家に、農福連携を提案。
- 障害者福祉サービス事業所に、農家への利用者派遣を提案。
- 農福連携に向け、双方の要望・条件等を確認し、利用者派遣の契約を進める。

農家と障害福祉施設との連携スタート



白菜収穫指導と作業

野菜集出荷場との連携スタート

令和2年

JA管内で連携が進む

- 農家の繁忙期に、障害者福祉サービス事業所からの利用者派遣を調整。
- 初回の派遣においては、JAが作業指導を行う。
- 農作業を習得した障害者が増加し、1日当たりの派遣者数が拡大。
- 野菜集出荷場との連携を始めたことで、作業内容、作業時間が増加。

農福連携の取組を広報誌で紹介



白菜選別指導

令和3年

農福連携をJA内外に波及

- JA主催の農福連携事業利用の提案を行い、農家、障害福祉サービス事業所やJA職員の学習を深める。
- 訪問先農家やJA広報誌で取組を紹介することで、他の農家に波及。

JA内で、農福連携の課題についての研修を開催



水稻苗箱洗い作業

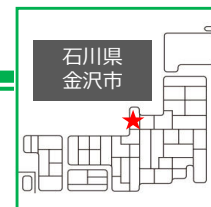
今後の展望

幅広い農福連携を求めて

- 双方がメリットを感じることでできる農福連携を実現し、継続的な連携を目指す。
- 農福連携のメリットを地域に広める。今後、特に障害者福祉サービス事業所側の連携相手を拡大していき、マッチング機会の増加を図る。



農福連携利用計画



障害者が安心・安全に働ける環境に配慮したコンテナ根域制限栽培によるイチジクハウスを整備し、障害者の社会参加の機会拡大及び、自立を支援しながら、誰でも活躍できるインクルーシブ農園を実現する。

基本情報

- 所在地：石川県金沢市才田町
- 団体名：農事組合法人One
- 選定表彰：－
- 主力商品：水稲、れんこん、ばれいしょ、とうもろこし、イチジク
- イベント：オンラインショップ、無印良品ネットショップ、田植え祭、One収穫祭
- 取得認証等：JGAP

取組の概要

- 水稲依存の生産体系から水田を活用した高収益な作物の生産へ転換し、持続性の高い農業を実践していく必要性を感じていたところ、地元企業からイチジクの生産を熱望され、オーダー生産に取り組みようと計画。
- 令和3年度「農山漁村振興交付金」を活用し、障害者が安心・安全に働ける環境に配慮したコンテナ根域制限栽培によるイチジクハウスを整備。
- 福祉事業所と連携し、障害者雇用により人材を確保。障害者が安心・安全に作業が行えるよう、作業工程や動線の見直し、作業の単純化、出荷規格の見える化などを図った。福祉事業者向けのマニュアルを作成し、指導者が障害者の特性にあわせた作業方法を考え説明を行うことで、利用者が行える作業の幅を増やし、効率性と安全性が向上。
- 希望に合わせて利用者に農作業だけではなく、今後、販売業務にも携わってもらい、やりがいを感じてもらおうことを検討する。



体制図

農事組合法人
One

- 株式会社トロワ
・就労支援事業所
- 石川県県央農林総合事務所、イチジク農家
・栽培指導支援
- 株式会社メープルハウス
・イチジク販売先 ・販路開拓支援
- 石川県高等専門学校
・作業サポートツール開発
- トヨタコネクティット株式会社
・作業改善支援 ・作業マニュアル作成
・販売システム支援

取組の成果

- イチジクの栽培技術や収穫期判定ツール、生産データの蓄積、マニュアルを整備することで農作業及び農産加工の効率化や安定生産が図られた。
- 障害者が携わる作業を見直したことをきっかけに、全体の生産性や安全性も向上した。
- 代表者が経営に時間を割けるようになり、既存の作物に加え、いちじくの栽培に着手したり、生産効率を考慮する余裕が生まれた。
- スタッフの意識にも変化があり、改善事例が現場で生まれている。

所在地 ▶ 〒920-3101石川県金沢市才田町は68番地

連絡先 ▶ TEL:076-255-1581 E-mail:one.20130201@gmail.com

ウェブサイト ▶ <https://www.one2013.com>

【取組のプロセス】

平成30年

人材の確保が大きな課題に

きっかけ

○ SDGs宣言を発信

「誰もが活躍できるインクルーシブ農業」を推進することで持続可能な農業を目指す。

就労継続支援B型事業所との連携

- れんこんの袋詰め作業委託から農福連携の取組を開始する。
- れんこん部門の着手を契機に、水稻の播種作業、にんにくやばれいしょの収穫、選果作業へと作業委託が拡大する。



イチジクハウス

新型コロナの影響等により深刻なコメ余りに

持続性の高い農業の実践

- 水稻依存の生産体系では持続的な経営が困難であると考え、水田を活用した高収益な作物への作付転換を模索し始める。
- 地元企業からイチジク生産を熱望され、オーダー生産に取り組もうと計画する。



農事組合法人One事務所

令和3年

農山漁村振興交付金を活用

イチジクのコンテナ栽培に着手

- 誰もが作業できることを意識したイチジクのコンテナ根域制限栽培（試験）を開始する。
- 利用者の適正に応じた役割分担により、自発的な就労を後押しするとともに、規格外品を有効活用した加工商品の開発・販売を目指す。



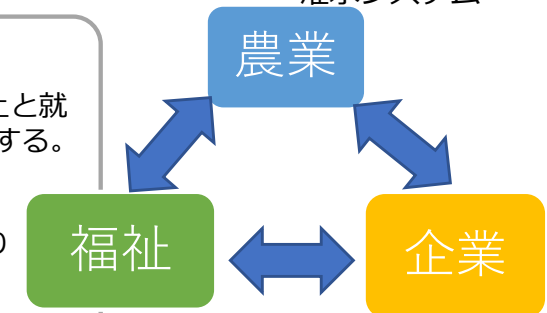
灌水システム

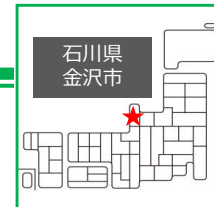
令和4年

地域農業の維持と障害者の自立支援の両立

- コンテナ根域制限栽培を確立することで、収益を向上させ、利用者の工賃向上と就労改善につなげる。そして生産全体を任せることが出来るように体制づくりをする。
- 農業従事者と障害者と企業を連携するプラットフォームを育成する。
- 当法人への視察や既存のイベントの開催等を通じて、イチジクの産地化を図り地域の活性化につなげる。
- 農業の知識を持った福祉人材の育成環境や、農業者側の受け入れ態勢を整える。

今後の展望





農林漁業者の所得確保に向けてこれまで未利用な資源を使った商品開発を行うとともに、農作業・加工作業で障害者の通年の作業を確保することで工賃確保に取り組む。

基本情報

- 所在地：石川県輪島市
- 団体名：(株)奥能登元気プロジェクト
- 選定表彰：福祉未来価値創造大賞2020
ソーシャルビジネスモデル部門 金賞
- 主力商品：レトルトカレー、入浴材、
除菌スプレー
- 取得認証等：-

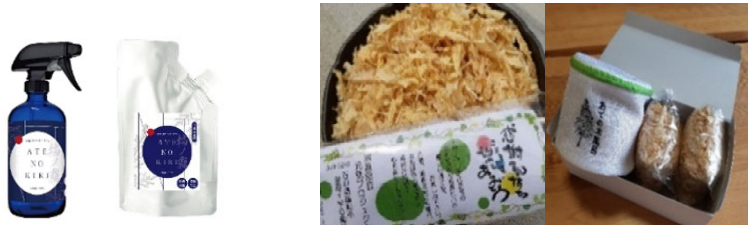


【レトルトカレー】

(左：輪島ふぐ 中央：能登町ブルーベリー 右：能登しいたけ)

取組の概要

○障害福祉サービス事業所から農家への作業者派遣や、農林漁業者の未利用な規格外農林水産物を活用した商品を開発し、事業所で製造して、地域の道の駅や観光地等で販売を行う。
○障害者は、田植えや野菜の定植、ほ場の除草などの農作業のほか、商品の具材カットや煮込みの加工作業を行うなど、通年の労働を確保。



木くずチップで製造された商品（左：除菌スプレー 右：入浴材）

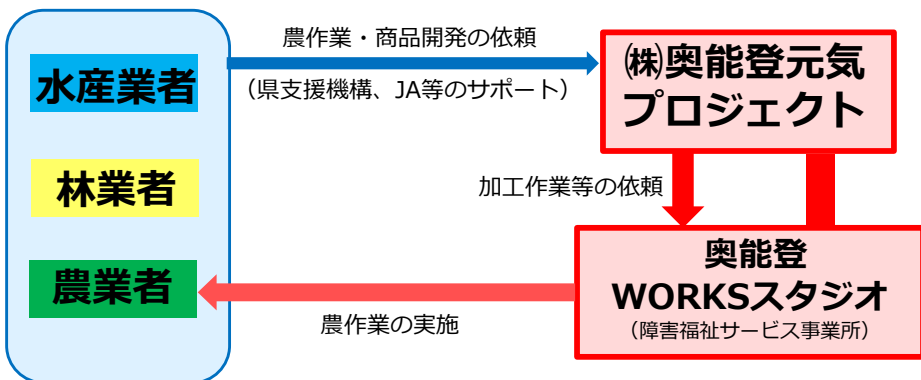


農家への作業者派遣（田植え）



事業所内調理加工場での作業

体制図



取組の成果

- 障害者の雇用創出と農林漁業者の所得増加
- 商品が増えたことで、障害者の作業時間が長くなり工賃アップ（月平均工賃約5,000円増）
- 地域での活動が増加するとともに、林業・水産業との連携が広がる



販売イベントの様子

所在地 ▶ 石川県輪島市里町1字6番地1
 連絡先 ▶ TEL:0768-34-1350 E-mail:ogp-2@ca1.wannet.jp
 ウェブサイト ▶ <https://okunoto-genki.com/>

【取組のプロセス】

平成29年

きっかけ

○奥能登地域の農家から規格外のブルーベリーの活用について相談を受けたことから、奥能登地域で農福連携の活動に取り組みたいと考えた

平成30年

(株)奥能登元気プロジェクト 設立

○代表は、金沢市及び白山市において、建築業と福祉事業を営み、以前から福祉施設利用者による、建築現場から出る端材や規格外の野菜を利用した商品の開発・製造・販売に取り組んでいるが、奥能登地域の農家から相談を受けたことがきっかけで、輪島市で法人を設立。

令和元年

障害福祉サービス事業所「奥能登WORKSスタジオ」を開所

○障害者が就職するために必要なスキルを身につける就労移行支援事業所として「奥能登WORKSスタジオ」を開所。

令和2年

農・林・漁福連携による商品開発・製造・販売

- 就労継続支援B型事業を開始。
- 規格外農産物を使ったレトルト食品の開発と商品の包装を施設で行うことで、農家の所得と障害者の工賃を確保。(小ロットから受注することで農家の挑戦を後押し)
- これまでに「能登町ブルーベリーカレー」「能登しいたけカレー」「輪島ふぐカレー」などのレトルト食品のほか、能登の木材「あての木」を使用した入浴チップなども商品化。
- また、令和5年夏にカフェ「ココハサトマチ」をオープン。被災したものの速やかに営業再開にこぎつけ、食事や商品を提供中。

今後の展望

農林漁福連携で奥能登地域の活性化を

- 過疎化が進み、1次産業の後継者も減っているふるさとの奥能登地域の里山里海を元気にしたい。
- 障害福祉サービス事業所と1次産業が連携することで1次産業の人手不足や後継者不在の問題を解消するとともに、将来的に就職を希望する施設利用者と一般企業とのマッチングを行い、地域の活性化につなげる。
- 震災で甚大な被害を受けたものの、取り組みを継続して明るい情報を発信し続けることで、地域に希望を届けたい。



加工品の袋詰め作業



ブルーベリーカレー



ココハサトマチ



除菌・除ウイルススプレー

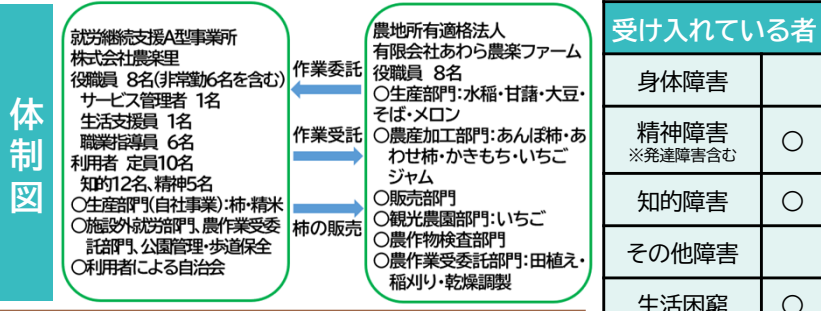
スマート農業を活用した農福連携を実践することで、農業を通じて障害者の働く場を提供するとともに、高齢化・後継者不足となっている地域農業の担い手として地域に貢献。



基本情報

設立:H13年 / 農福連携取組開始:H13年
 取得認証等:認定農業者(H13年)
 農山漁村振興交付金(農福連携型)(R5年度)
 主な選定表彰:FUKUIふるさと納税事業者アワード大賞 等

概要
主力商品
 (農作物)水稲、メロン、いちご、甘藷、大豆、そば
 (加工品)ジャム、米菓、あんぼ柿、あわせ柿
特徴的な取組
 環境保全型農業、スマート農業、観光農園、6次産業化 等



住所:福井県あわら市山室72-101
 TEL:0776-73-5955
 Mail:info@awara-nougaku.jp
 URL:http://www.awara-nougaku.jp

受け入れている者	
身体障害	
精神障害	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	○
ひきこもり	○
高齢者	
その他	

きっかけ

H13年
 平成13年に県内の社会福祉法人から独立。障害者に雇用の場を提供、地域農業の担い手となることを目的に設立。

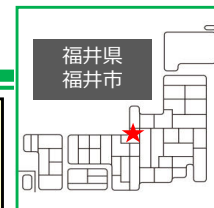
取組

- 人を耕す**
 - 柿の剪定・収穫・加工、水稲の播種・育苗、田植え、メロンの収穫、選別、出荷、いちごの根切り等、畦畔の除草など年間を通して多様な農作業に障害者が携わる。
 - 障害者がロボット田植え機、アシスト付コンバインのオペレーターとして活躍。
- 地域を耕す**
 - 高齢化・後継者不足となっている地域の集落営農組織のほ場の草刈り、田植え、稲刈り等の作業を受託し、地域農業の担い手として信頼を得る。
 - 中山間地を含め農地の畦畔、土手、農道等を刈払い機を使用して除草を行い、地元住民から高い評価を得ることが、障害者の励みになっているほか農村環境の維持に貢献。
- 未来を耕す**
 - ICT(情報通信技術)によるほ場管理システム及び農業用ドローン、ロボット田植機、アシスト付コンバインを導入し、スマート農業を活用した農福連携に取組む。
 - 障害者の「一つひとつの作業を丁寧に言う姿勢」とスマート農業が合わさることで高品質で安全・安心な農産物生産、生産工程の安全性が高められ、GH評価900点以上の高評価を得た。

成果

施設外就労委託費	障害者数	委託作業数	農地面積
318万円(R2) →882万円(R6)	11人(R2) →14人(R6)	39作業(R2) →89作業(R6)	72ha(R2) →85ha(R6)

● スマート農業機械を扱うことで障害者のモチベーションが向上し、仕事に対する自信が生まれ10年で5名が一般就労に移行。
 ● スマート農機を導入することで作業環境の改善、AIによる肥培管理・販路開拓、農産物の品質の向上、収益の向上に繋がっている。
 ● 職員と障害者が一緒に農作業(安全管理を含む)に関する座学・研修、講習会、避難訓練等に取り組むことで信頼関係を構築。

福井県
福井市

福井県福井市にある「C&Cサービス」は、リハビリが終わった統合失調症やうつ病患者の職業復帰を目的として、平成25年に設立した就労継続支援A型事業所。現在は、精神障害者約9名が、農園「こころファーム」において、椎茸の菌床栽培や野菜の減農薬又は有機栽培を全年で行うことで障害者雇用の拡大を図る。また、市内の精神科病院とも連携しリワークプログラムの実施のための、障害者の受け入れを積極的に実施している。

基本情報

- 所在地：福井県福井市
- 団体名：特定非営利活動法人こころ
- 取組パターン：グループ内連携型
- 選定表彰：－
- 主力商品：椎茸、ほうれん草、こまつな、ベビーリーフ
- 取得認証等：ノウフクJAS



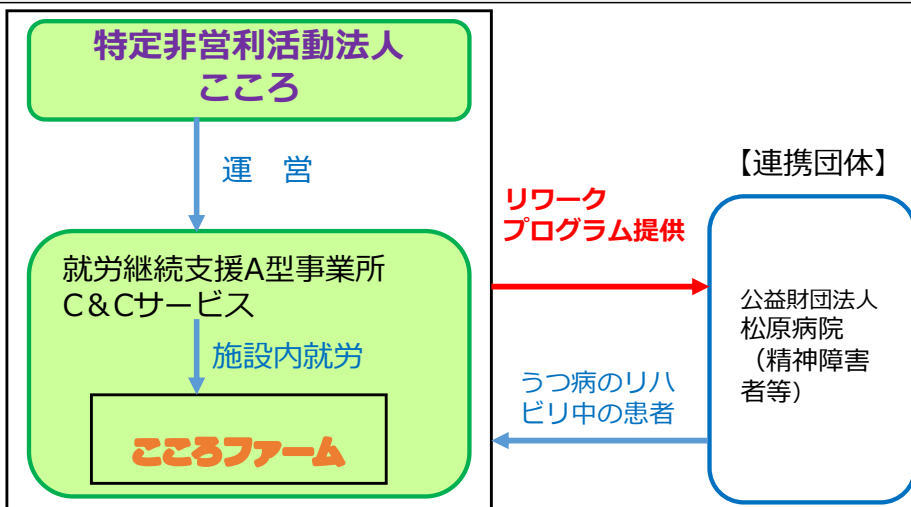
取組の概要

- ◆ 農園「こころファーム」では、椎茸の菌床栽培や、ほうれん草、こまつな等の生産を農福連携により施設園芸で取り組み、9名の障害者の就労の場を生んでいる。
- ◆ 主な作業内容は、椎茸の収穫、選別、間引き、クリーニング（菌床棚洗浄、菌床のカビの除去）、葉物野菜の収穫、洗浄作業。
- ◆ 病院や福祉施設での訪問販売。
- ◆ 連携団体である「精神科病院」からのリワーク（復職）を目的としたリハビリのための農業プログラムの実施。
- ◆ 就労支援やリワークプログラムの修了者を支援するため、生産物の買い取り及び販売の請負。

取組の成果

- ◆ 全体的な生産量（椎茸・葉物野菜）は、ここ5年間ぐらいで大きく拡大しており、椎茸では約2倍の生産量となっている。また、野菜を含めた全体的な売上額も5倍近くに増加している。
- ◆ 生産量が増加したことにより、連携する就労継続支援B型事業所への作業委託を増やすことができ、作業効率が良くなり生産性も向上している。
- ◆ リワーク（復職）を目的とした農作業のリハビリにより、取り組み当初から21名の復職と2名の就農を実現している。
- ◆ 農福連携に取り組みたい福祉事業所からの視察がふえており、モデル的存在になりつつある。

体制図



所在地 ▶ 福井県福井市文京2-10-4

連絡先 ▶ TEL:0776-63-6711 E-mail:cocorofarm5560@gmail.com

ウェブサイト ▶ ー

【取組のプロセス】

農業によるリハビリ、障害者の雇用拡大を図る。

平成27年

きっかけ

平成25年設立の就労継続支援A型事業所は当初、事業は清掃部門のみであったが平成27年に関係病院が運営していたほ場（ハウス園芸）を引き継いだことにより障害者が農業を通じてリハビリを行い、さらには障害者の雇用拡大、農業での収入確保を図りたいと農福連携を開始。

（農業拡張期）

- 以前より、精神障害をもつ障害者が農作業を行うための配慮事項や、訓練ではなく雇用を維持するため、冬季でも継続して通年稼働できる農業の方法等の課題に取り組んできた。
- 平成28年5月、ハウス2棟を拡張し、ほうれん草の増産に取り組む。
- 平成28年10月、坂井市に新たに農地を借り、ベビーリーフなどの栽培に着手。



園芸用ハウス

農山漁村振興交付金活用

平成28年

（ハウス倒壊と再生・リワーク受入れ開始）

- 平成29年10月の台風と平成30年1月～2月の大雪でハウスが倒壊。
- 平成30年10月、農山漁村振興交付金により基盤整備、ハウス再建を実施。
- 椎茸菌床栽培開始。
- 関係病院からのリワーク（復職）希望者の受け入れ開始。



椎茸菌床栽培

リワーク開始

平成29～30年

（障害者雇用と販売の拡大）

- 現在は9名の障害者により、椎茸、ほうれん草、こまつなの栽培に取り組む。
- 小売店や病院、福祉施設での販売にも力を入れ、販売額を伸ばしていく。
- 施設整備にコストがかかることから、支援事業の積極的活用。



薬物野菜の作業風景

ノウフクJAS認証取得

令和2年

（福祉事業所で作るネットワーク）

- 農福連携に取り組んでいる他の福祉事業と連携して、生産・流通・販売ネットワークが可能となる福祉事業所が運営する農業組合的な組織ができれば良いと考える。
- JGAPの認証を取得し本格的に生産・流通に対応することで、事業の安定化と障害者雇用の更なる拡大を図る。

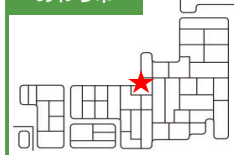


企業での訪問販売

今後の展望

AIやスマート農業を活用することで障害者の作業領域を大幅に拡大。水稻栽培や観光いちご農園等に取り組み、楽しく多様な農福連携を実現。

福祉事業所

福井県
あわら市

きつかけ

H25年

障害者に農業を通じて働く場を提供し、共に地域農業の担い手となることを目的に設立。

人を耕す

- 農作物の播種・定植、除草、収穫、乾燥調製、出荷、加工の作業を分解することで、知的障害者、精神障害者の17名が自社事業及び施設外就労で、100haを超えるほ場で農作業に従事。
- 講習を修了した利用者がロボット田植機、アシスト付コンバインのオペレーターとして活躍。
- 一人ひとりの特性、経験、技術、相性等を考慮し、作業内容、チーム編成を行うことで、利用者間の信頼関係を構築。

地域を耕す

- 農山漁村振興交付金を活用し、小口精米ユニットを導入。利用者が精米作業に従事し、首都圏、関西圏の障害者就労施設、外食事業者へ精米を販売。
- 県内外からの視察や田植・稲刈り体験、観光いちご農園等で交流人口が増加。
- 獣害対策等として、ほ場の畦畔、土手、農道等の除草作業を年4回実施し、中山間地の集落維持に貢献。

未来を耕す

- ドローン、ロボット田植機、アシスト付PFコンバイン、トラクター、米乾燥施設の温度管理にスマート農業を活用。
- 特別栽培農産物(米・メロン)の栽培、観光いちご園の暖房燃料は間伐材でのペレット材を使用し、環境にやさしい農業に取り組み、GH評価で900点以上と高い評価。

取組

基本情報

設立:H25年 / 農福連携取組開始:H25年

概要

主力商品

(農作物)米・大豆、甘藷、柿
(加工品)いちごジャム、かきもち

特徴的な取組

スマート農業、環境保全型農業、特別栽培農産物

体制図

就労継続支援A型事業所
株式会社農楽里
役員 8名(非常勤6名を含む)
サービス管理者 1名
生活支援員 1名
職業指導員 6名
利用者 定員10名
知的12名、精神5名
○生産部門(自社事業)・柿・精米
○施設外就労部門・農作業受委託部門、公園管理・歩道保全
○利用者による自治会

作業委託

作業受託

柿の販売

農地所有適格法人
有限会社あわら農楽ファーム
役員 8名
○生産部門:水稲・甘藷・大豆・そば・メロン
○農産加工部門:あんぼ柿・あわせ柿・かきもち・いちごジャム
○販売部門
○観光農園部門:いちご
○農作物検査部門
○農作業受委託部門:田植え・稲刈り・乾燥調製

受け入れている者

身体障害	
精神障害	○
知的障害	○
その他障害	
生活困窮	
ひきこもり	○
高齢者	○
その他	

成果

平均賃金月額

71,306円(R2)
→87,038円(R6)

売上高

642万円(R2)
→2,145万円(R6)

交流人口

1,409人(R2)
→10,002人(R6)

農地面積

74ha(R2)
→105ha(R6)

- AIやスマート農業による農福連携で、安全性が高く、操作が簡便で、精度の高い農作業が可能となり、農作物の生産性や品質の向上、収益UPに寄与。
- 完全週休二日制、夏季休暇、年末年始休暇制度等で勤務条件を改善。
- 県平均を大きく上回る12万円以上の月額賃金を実現した者も増加。
- 利用者は、チーム長、リーダー、一般就労へとステップアップし、5名が一般就労。
- あわら市ふるさと納税返礼品に農福連携商品として登録。利用者がデザインした段ボール箱で返礼品を送付する等、農福連携の普及啓発に尽力。

住所:福井県あわら市山室72字長割山101番

TEL:0776-63-6317

Mail:info@fukui-norari.jp

URL:http://www.fukui-norari.jp/